

脱「どんぶり勘定」で経営改善

「臨時経理部長」が建設業界で奮闘



アイユート
(愛知県名古屋市)



アイユート 服部正雄氏

大学卒業後、機械メーカー、電気工事業にて取締役として、経理、総務、経営企画に従事。2007年4月に独立、株式会社アイユート代表取締役就任。40年以上にわたる実務経験を活かし、中小建設業に対し、原価管理・経理管理・経営管理を関連させる経営の見え方化で経営改善の支援を行っている。総合建設業・土木工事業・住宅リフォーム工事・専門工事業まで経営の改善に多数の実績を持つ。また経営幹部、経理担当者、新人社員向けのセミナー実績も多数。著書に『小さな建設業の脱!どんぶり勘定』(合同フォレスト)がある。

「どんぶり勘定」にもう一つ重要なのは、利益意識の改革です。大手建設会社のように専門知識を持つ経理担当を中小建設会社では抱えられない、そこで、仕組み作りからその会社に合った原価管理や経理管理をお手伝いしています(服部氏)

「さらにもう一つ重要なのは、利益意識の改革です。大手建設会社のように専門知識を持つ経理担当を中小建設会社では抱えられない、そこで、仕組み作りからその会社に合った原価管理や経理管理をお手伝いしています(服部氏)」

「さらにもう一つ重要なのは、利益意識の改革です。大手建設会社のように専門知識を持つ経理担当を中小建設会社では抱えられない、そこで、仕組み作りからその会社に合った原価管理や経理管理をお手伝いしています(服部氏)」

なぜ陥るかに

「どんぶり勘定」の解消が経営改善につながる—アイユート(愛知県名古屋市)の服部正雄社長はこれまで数百の企業の経営を救ってきた。自ら『臨時経理部長』と称する服部氏の「どんぶり勘定」解消のポイントは粗利益率の改善に努力要点を置くことだ。

「理由として、建設業特有の原価管理の難しさを服部氏は指摘する。」「経理(原価管理)は、経営の根幹を占める重要な部門ですが、特に中小建設業は、未成工事支出金や未成工事受入金の把握が難しく、原価管理が難しいこともあり、どんぶり勘定に陥りやすい。そこを改善するために、経営者の補佐役として、一緒に計数管理と利益意識の向上を図ることで利益を増やすことが、私の仕事です(服部氏)」

一本の電話から

服部氏が今の事業を続けたと思うきっかけは、一人のリフォーム会社の経営者からの電話だった。当時、アイユートとして独立して間もない服部氏のもとに



「一本の電話から」 服部氏が今の事業を続けたと思うきっかけは、一人のリフォーム会社の経営者からの電話だった。当時、アイユートとして独立して間もない服部氏のもとに

経理のお悩みチェックシート

あてはまる項目はいくつありますか？

- 工事を受注したときの記録帳票がない。
- 部門ごとの完成工事高、粗利益高が把握できない。
- 実行予算書が作成できない。
- 工事担当者ごとの利益成績が分からない。
- 発注書がきちんと発行できない。
- 工事の最終利益が分からない。
- 事業計画書が作れない。
- 工事の請求漏れが心配。
- 資金繰り表がうまく作れない。
- 税理士の決算書と工事売上や利益の数字が大きく違う。
- 受注残がいくらあるのか分からない。
- 決算予測ができず、決算してから慌てている。
- 受注目標の設定・チェックができていない。
- せっかく導入した原価管理ソフトが活用できていない。

見ながら1日ばかりで銀行が必要とする資料を作成した。

「しばらくしてから、そのリフォーム会社の社長から「服部さん、ありがとう、あなたのお陰でお金が借りられた、本当にありがとう」とお礼の電話があった。「飛び上るほど嬉しかったことを覚えていきます」と服部氏は当時を振り返る。

その後、建設業経営(会計)の補佐役として、リフォーム会社のみなさん、総合建設業・土木工事業・専門工事業などの建設業全般の経営(補佐)に携わってきた。服部氏の携わった経営改革によって、工事原価の管理で粗利益が増え、業績が改善した会社の数は数万件に及ぶ。